

【事業内容】

旧沼田貯蓄銀行の移築保存整備に着手するため、建物の解体工事及び建物調査のための予算計上です。

解体前の現段階での数値ですが、総額を1億5,000万円見込んでいます。負担割合は、国の社会資本整備交付金が40%で、6,000万円、県の指定重要文化財保存事業補助金として交付金を除いた残額の50%で4500万円。

その他公共事業債の活用も考え、残りが一般財源となります。

当初は、現地保存での検討でしたが、平成10年に中心市街地まちづくり事業により移築保存整備へと変更されました。

Q：方法や出来映えで賛否の分かれる可能性のある事業と思われるが、移転後の活用策と効果への考えを伺います。

A：街なかの賑わいへ貢献することも視野に入れて、プロポーザル方式で設計を募集しました。

広場の確保や生方記念文庫を同一敷地内に移設することで、複合的効果も見込まれると考えます。(H23年度予算3,300万円)



上之町信号付近の移築予定先の写真

鈴木時計店から左へ空地・華や・空地・秋永理容所までの736㎡へ「生方記念文庫」「旧沼田貯蓄銀行」「広場」そして通路が周りを囲む。

プロポーザル(入札)方式

公募または指名により複数の者(受託希望者)からその目的に合致した企画を提案してもらい、その中から企画・提案能力のある者を選ぶ方式がプロポーザル方式です。

設計業務の場合、コンペ方式が「設計書」を選定するのに対し、プロポーザル方式は「設計者」を選定するという違いがあります。

Q：今後のスケジュールは？

A：H24年度 実施設計を行うための諸経費
H25年度 調査に基づく実施設計
H26年度 移築建設工事
H27年度 報告書作成 となっています。

Q：本当に移築に耐えられる状態なのか？

A：H22年度に発足した移築保存整備検討委員会で、県の文化財保護審議会の委員長にも見ていただいた。目視によるものだが、幸い雨漏りがなく柱等が腐食しておらず、古いが再使用は可能との見解をいただいています。

Q：現地での保存(材木町)方針との整合性は

A：教育委員会としても当初は、現地保存方針でした。しかし、保存をするというときには、利活用の問題が当然出てきて、管理や駐車場等を考慮すると、現地で実現可能か？という視点から再検討してきました。

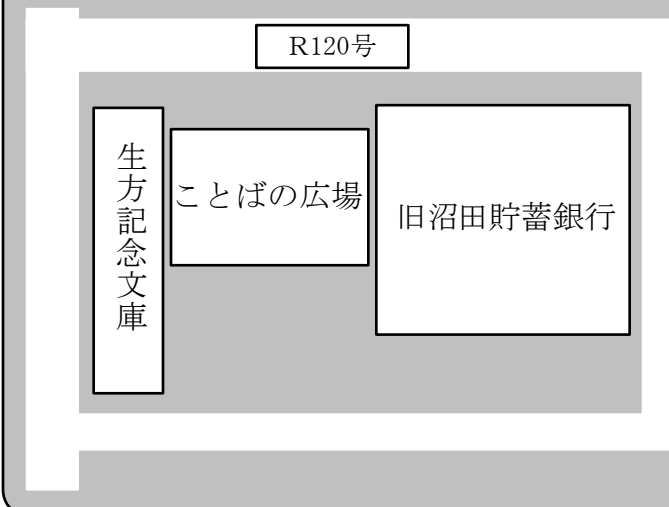


プロポーザルでの最優秀者
(株)京都建築都市研究所 岸和郎氏

技術提案書概要

- ことばの広場＝二つの施設をつなぐ石盤のような床に生方たつゑ氏の詩が刻まれる。
- 旧沼田貯蓄銀行＝地域交流センターとしての機能も持たせ、ギャラリーやミーティングスペースとしても活用。
- みどりの広場＝普段は広場で、イベント時には、観客席になったり、露店が出たり…。
- 群馬県産の多湖の石を用いた記念文庫のルーバー(日差しや視線よけの板)

以上のようなイメージが沼田市のホームページに掲載されたイメージです。図も描かれていますので、興味のある方は一度ご覧ください。



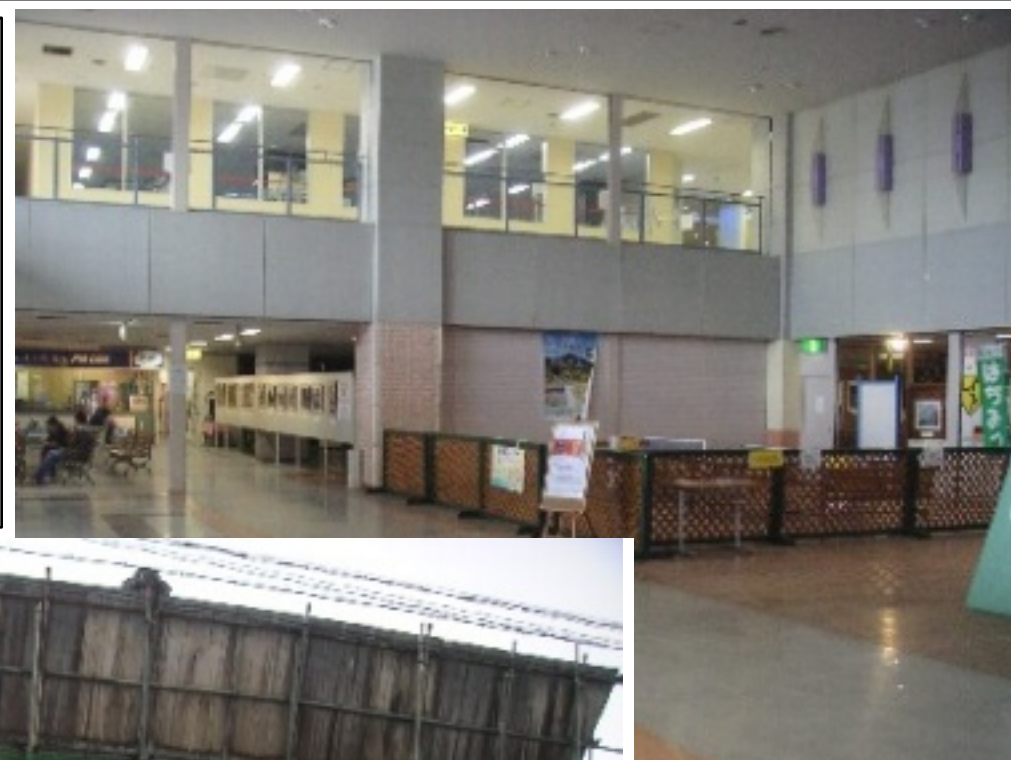
高柳かつみと歩む会 ニュース

2012年春・夏期 NO38号

発行責任者 高柳勝巳 〒378-0055沼田市柳町2570-11 割田アパート2号 ☎ 22-6860
HP <http://www.orahoo.com/ayumu-kai/> Eメール xx.takayanagi-po@au.wakwak.com

奥には、FM O Z E スタジオのあるグリーンベル21の5階の現在の風景です。

ゲームコーナーもなくなり、卓球台も撤去され沼田ふるさと館は、「突如・休館」となり閑散としています。



第38号目次	
私の一般質問のページ	P 2 ~
気になる一般質問	
私の予算審査質疑のページ	
気になる予算審査のページ	
介護保険料値上げ 後期高齢者医療値上げ 税と社会保険料の一体改革	P 8

**高柳勝巳の質疑含めた
H24年度予算審査特別委員会報告**
今回の予算では、「まちづくり支援事業」と「旧沼田貯蓄銀行移転事業」に多くの質疑が寄せられ、問題が浮き彫りになりました。この2事業は、質疑者全員の概要から、問題の所在を報告してみたいと思います。

まちづくり支援事業 60,279千円
普通旅費 95千円

沼田ふるさと館運営委託料(10,279千円)
「グリーンベル21」テナント出店

促進事業費補助金50,000千円

【事業概要】(グリーンベル21の)空床率が、75%という現状なので、その出店を促進するため、1,000㎡を超えるテナントが出店に際して負担する内装費等について、1坪当たり5万円と実際に要した経費のいずれか低い額の2分の1を助成するものです。

Q: 予算額5,000万円の根拠と、出店予定のテナントは決まっているのか?

A: 昨年、前橋市の「大型商業施設出店促進事業」へ最大1億円の補助の件や、全国各地での誘致への具体的施策も参考に検討しました。

これを基準にして、**少なくとも3階までは埋めたいという考えからです。**

これまで接触を図ったどの企業も、多方面から膨大なアプローチを受けているので、一步踏み込んで、誘致につなげようとの考えで、企業が絞り込まれている段階ではありません。

Q: 沼田ふるさと館の事業内容と、来館者が少ないにもかかわらず、続けていく理由は?

A: グリーンベル21の活性化を目的に平成14年に、5階の一角約66坪に設置したもので、本年2月末で来館者数9,689人、対前年比71.6%、累計売上額では、196万3079円で、震災の影響もあり、対前年比79.2%です。

施設内の移転先として1階も考えましたが、設備面での支障があり困難でした。

Q(複数者のまとめ): 「少なくとも3階までは埋めたい。」という基本的な考え方や、方針はどうやって出されたのか? また、「基本方針」のようなものが存在するなら、どこの場所へ、

どんな店をどの程度の面積配置していくのか? という「青写真」のようなものは、なくてはおかしいと感じるのだが…。

A(複数質疑への総合で): バラバラで非効率に配置しているテナントを、一定まとめてショッピングセンターとしての機能を、回復させていく考え方を幾つか、関係者と模索していた。

そうした中に(弁当などが持ち込める)パブリックスペースのようなものが、あっても良いとも考えている。

Q: 結局補助金は、メドテックなどの「オーナーサイド」へ回ってしまうだけではないか?

A: 100%市民のためのものであり、都市開発やメドテックといったオーナーへの補助ではないことを理解願いたい。

そんな中関係者にFAXで「ふるさと館」は休業?

Q: 「ふるさと館」が閉館というFAXが送信されたと思ったら、休館に訂正されるという自体を、委託金を払っている沼田市としてどう考えている?

A: 昨年来、ビル管理費の削減策として、関係者との協議で、2階のテナントを1階か3階へ移動するという話が出てきていて、止むなく5階は一時閉めざるを得ないという考え方の中で、意思がうまく伝わらず、申し訳ありません。



グリーンベル21の3階の写真

現在は、子供服店のポッケも笠間のバッグ屋さんも去り、中央にキャンドゥとアカシヤさんが点在するのみとなっています。

なくなって、条件が整わない人は、この地域から出ていかななくてはならなくなるという選択肢も出てしまうのです。

こうした実態の克服のためにも、社会福祉法人や民間企業に頼るのではなく、沼田市が独自、もしくは主体となって「障がい者雇用の創出」をして欲しいのですが…。

A: 今回当初予算で、利根沼田地域障害者相談支援事業を始めるべく予算措置をしています。

行政の立場から、障害を持っている方でも軽微な作業というんですか、仕事が図られるようなことについては、新しくできるセンター等で相談を通しながら、実態に即した形の検討を加えていかなければならないのではないかと考えています。

Q: 先月、民間のリサイクル施設を見に行かせてもらいました。二箇村衛生施設組合(沼田市・川場村・昭和村)でリサイクルセンターを建てるという計画があります。ここで、ハイプラ等の前処理・後処理する作業があるのです。中に不純物が入っているものを、自分のペースで取り除くことが可能なわけです。

リサイクルセンターそれぞれ色々な施設で様々な処理方法があります。こうしたところに障害者の皆さんをまず雇用や訓練の場として、二箇村で共同して設置をして、「新たな受け皿」をつくらないと、もうこの地では限界だと考えますが…。

A: 何といても作業の安全性の確保が重要で、そこへは慎重に成らざるを得ませんが、これがクリアされた上での考え方としては、一定理解ができます。

尚、二箇村での話については、それぞれの自治体との相談となりますので、しかるべき場において話をつないでいくことになります。



市内岩本町のエコセンターでの「分別作業」の様子



市内上川田町の最終処分場へ積まれた「資源プラ」

A: 今後、福祉を総合的な視野で解決するためには、地域の障害福祉に関するネットワークを構築が必要と考え、利根沼田地域の行政職員、相談支援事業者、福祉サービス事業者、保健・医療関係者等で構成され定例的に開催し、協議を行っている「利根沼田地域障害者自立支援協議会」が組織されていますので、これを有効活用するとともに、各関係機関が連携・協力し、総合的な視野で地域福祉の諸問題に対応していく方針です。



あったらいいなあ!

こんなリサイクルセンター

- ①生ゴミの分別推進コーナー
- ②プラの飛躍的活用率の向上
- ③交換コーナーの設置
- ④環境関連「市民活動室」の設置
- ⑤環境学習会などの開催できる会議室
- ⑥大型家具や自転車の修理販売
- ⑦おもちゃの病院コーナー
- ⑧休憩や交流のための「喫茶コーナー」

こうした施設内の全ての担当者へ「障がい者」の配置が可能となったら、どんなに幅の広い障がい者のための就労や体験の「受け皿」になるだろうか。

全国には、官民含めて様々な形のリサイクルセンターが、存在しています。「あったらいいなあ…」では、財源の裏付けも、施策の適否もなく考えたプランですが、施策の一つ一つはインターネットで調べて、現実に存在する施策ばかりです。

受付け業務、分別業務、資料作成業務、調理業務、清掃業務などが、こうした施設の中には、その可能性を秘めていると思いますが…。